



東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和2年7月31日発行 第5号



『人の役に立つ喜び』を知る

岩内東小学校長 齊藤 信之

感染拡大に歯止めがかからず、報じられる新規感染者数に驚きと怖さを感じる日が続いています。いつ自分事となってもおかしくない状況であることを念頭に、引き続き、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなど基本的な感染症対策に努めてまいりましょう。

学校は本日第1学期を終え、明日から夏休みに入ります。子どもたちの日常が戻りつつあるとは言えるものの、ストレスを感じてきた子も少なくないはずです。いつもより1週間ほど短い夏休みですが、ご家族と過ごす時間が、子どもたちの癒しとなり活力となることを願うばかりです。ご家族での楽しい旅行の計画等もあるかと思えます。他府県や他市町村への移動の際には、自治体ごとの状況や対策等を事前に調べるなどして、くれぐれもご自身やご家族の健康を守ることに留意ください。

私たち大人は、社会的マナーとして「お年寄りに席をゆずろう」とか「困っている人に親切にしよう」などと子どもに教えます。これらのマナーの基本は、人の役に立とうとする気持ちです。ですから、根本にある「人の役に立つ喜び」を教えることができれば、細かなマナーの一つ一つを言って聞かせる必要はなくなります。「人の役に立つ」というのは、副作用のない動機づけであり、すべてのマナーの基本です。

これに対し、ほめられて動く種を植えられた子は、ほめられるという見返りがなければ行動を起こそうとしません。また、叱られる、怒られるという動機づけでは、あまりにも否定的な要素が多すぎます。これら副作用の多い動機づけではなく、子どもを肯定的にやる気にさせることができるのが「人の役に立つ喜び」を教えることだと思います。夏休みは、その絶好の機会です。子どもが新聞を取ってきてくれたとき、「ありがとう。起きてすぐに新聞が読めるからうれしいなあ。」子どもがお茶碗を並べてくれたとき、「ありがとう。この時間はとても忙しいから、あなたがいてくれて助かるわ」と、子どもが手伝ってくれたことに感謝し、心から喜んであげます。「えらい」「いい子だ」だけではなく、子どもがしてくれたことをどう感じたか、その気持ちを率直に話してあげます。自分が役に立っているという実感は、喜びとともに自分自身を肯定的に捉える芽を育てます。ルールを守る心の強さも、人を思いやるやさしさも、自己実現に向かう前向きさも、全てはここから始まります。

朝の検温、健康観察シートの記入など、これまで根気強くご協力いただき、ありがとうございました。無事に1学期を終えることができたのも、皆様のご協力とご理解のおかげです。対コロナは常に付きまといますが、この夏が子どもたちとご家族の皆さんに、明日への活力と幸福をもたらしてくれることをお祈りしています。